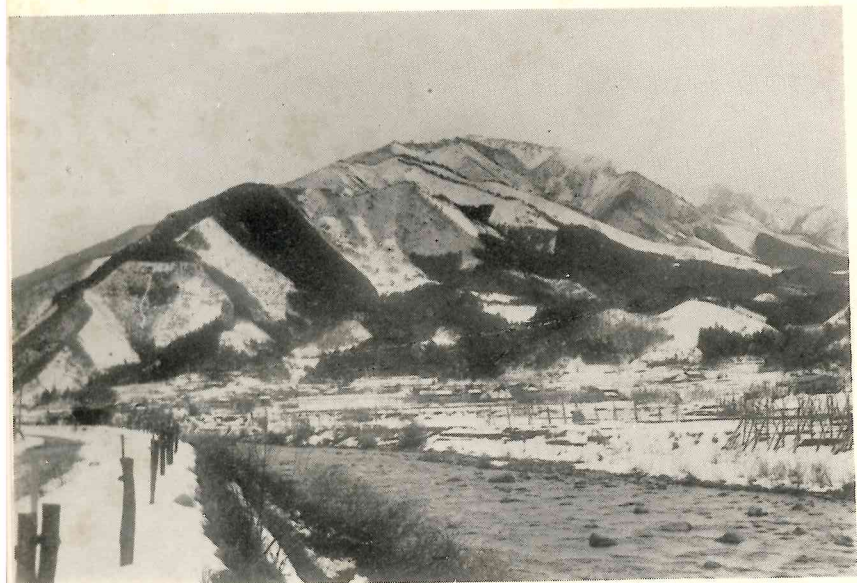


定本

無爲陸

詩集

神無書房



穂野見山 土地のものはホノミゼン
と呼ぶ。著者の詩にいつるところの
ほのみのやまなり。この山ふところ
にて少年の日をすごしたり。標高九
八〇米、頂上にのぼれば晴れたる日
には北方に日本海見ゆ。
わが父祖の奥城もこの山ふところ
にあり。いづれは我れまたこの山に
帰る也。

伊福部 隆彦

目次

序詩

この真実なるもの……………一

第一部 老鶴

序詩

悲願……………一〇

老鶴

老鶴……………二

ニルバーナ……………二五

冬……………二七

根本無明……………二九

ある墓碑銘……………三三

幸福についで……………三三

秘願……………三五

無為……………三六

曾つて彼は……………三三

ニルバーナ……………三六

想片……………三六

崑崙の石……………四〇

石……………四三

伯樂と駿馬……………四四

蕾と花と実との対話……………四四

私は見たのだ……………四六

お目出度い馬鹿者ども……………四六

私の夢……………四七

茨のはじけた豆穀……………四七

夢……………四八

拾遺抄……………四八

飛瀑……………四八

祖母の瞳……………四八

私は見た……………四八

老いたる蛇に与へて……………四八

哀悼詩篇I……………四八

哀悼詩篇II……………四八

夢中説夢……………四八

組詩 或日私は是の如く聞いた……………四八

その一 神と悪魔よりの囁き……………三三
その二 いと小さきものたちの詩……………三六
その三 悪魔宣言……………三七

第二部 暁闇

序詩

私ははじめて私を見た……………三〇

虚無

人生……………三六

老年……………三六

かなしみ……………三九

嘘と真実……………三九

私は人に異つて……………三九

心のきれぎれ……………四〇

玉葱のうたへる……………四〇

秘密……………四〇

虚無……………四〇

真実……………四二

鶴

きよらけき……………三三
めにみえぬ……………三三
くるみ……………三六
おろかしき……………三六
おさなさも……………三六
ひるのつき……………三六
にほふなれ……………三六
或る老いたる恋の獵人のうたへる歌……………三七
よきひとを……………三七
しんじつ……………三九
なげかひは……………三九
きみゆゑに……………三九
ゆふにほふ……………三九
わがむねに……………三九
きみを得て……………三九
いのるのみ……………三九
わすれめや……………三九
老いらくの……………三九
或る石の詩……………三九

冬日	一三五
私の夢	一三六
秘事	一三七
石	一三八
石のやうに	一三九
老年	一四〇
死についで	一四一
無	一四二
空	一四三
絶	一四四
鶴	一四五
うしなひし日	一四六
はるふかき	一四七
逝く春	一四八
山はかなしく	一四九
ただ詩のみ	一五〇
むなしさは	一五一
くすだま	一五二
のがはの春	一五三

はなふぶき	一五九
こぶしなく	一六〇
きぬぐとのつき	一六一
しその実の	一六二
いまははや	一六三
ろんごは ちちに	一六四
へのへのもへ	一六五
水ぬるむ	一六六
れんぎよう	一六七
ねむのはな	一六八
うるかの味	一六九
ただひとり	一七〇
うめほころぶ	一七一
うしなひし日	一七二
とりのね	一七三
おさのおと	一七四
しろき肩	一七五
にほふがに	一七六
もりのはる	一七七

芹つむ乙女	一四九
くづかづら	一五〇
ふきのはに	一五一
ふじのはな	一五二
ゆりのはな	一五三
あきのやまじ	一五四
かぜのいろ	一五五
すぎし日	一五六
ももとせのそと	一五七
つゆくさ	一五八
くわのみ	一五九
やまもも	一六〇
なつぐりの	一六一
自画像	一六二
瓢々先生	一六三
おもひで	一六四
妻へ	一六五
自画像	一六六
幽心抄	一六七

幽心抄	一六六
麗日	一六七
低唱集	一七八
春雑唱	一七九
神と悪魔との間	一八〇
序詩 悪魔の魅力について	一八一
第一詩 悪魔の微笑	一八二
第二詩 橋	一八三
第三詩 戦ひ	一八四
第四詩 阿難	一八五
第五詩 釈尊	一八六
第三部 嘘と真実	一八七
序詩	一八八
竜	一八九
理想	一九〇
その一 漬物石	一九一
その二 牛蒡	一九二
その三 樂焼の茶碗	一九三

その四	茶の花	三〇一
その五	高村光太郎	三〇一
その六	武者小路実篤	三〇四
その七	石川三四郎先生	三〇五
その八	良寛	三〇七
その九	つまらない小男	三〇八
その十	私は知っている	三〇九
その十一	U子よ	三一〇
その十二	女性について	三一一
その十三	ありたい	三一一
自画像		
その一	田螺	三二六
その二	鱈	三二七
その三	馬鈴薯	三二八
その四	からたち	三二九
その五	私は	三三〇
その六	ねがひ	三三三
その七	知命	三三四
わが家二題		

その一	きれいすぎますね	三二六
その二	薔子	三二七
夢		
頭韻四十八音詩		
いろはにほへと ちりぬるを		
わかよたれそ つねならむ		
うみのおくやま けふこえて		
あさきゆめみし ゑひもせす		
桃源抄		
桃の花 I		三四四
桃の花 II		三四四
桃の花 III		三四四
桃の花 IV		三四四
桃の花 V		三四四
独活が食ひたい		三四四
桐の花		三四四
卯の花		三四四
柿の花		三四四
合歡の花		三四四

増田 晃 I	三〇〇
増田 晃 II	三〇一
田螺 I	三〇三
田螺 II	三〇四
嘘と真実	
嘘	三〇六
夢	三〇九
聖(じゃん・けん・ぼん)	三〇九
永遠	三一一
おもひで	三一一
さびしき	三一一
幸福	三二七
尾詩	
冬眠	三六一
卷末に—わが詩的遍歴略記—	三六三

500部限定13部

第13号

無為隆彦

定本 無為隆彦詩集

限定五百部

定価 一五〇〇円

発行 昭和四十一年二月十日

著者 無為隆彦

発行者 青木美也子

発行所 神無書房

東京都北区西ヶ原二丁目七十一番
電話(九一九)四三七九番
振替口座 東京四〇〇八二番

光陽印刷株式会社印刷 北伸社製本

著者の諒承により検印は随止します